

セミナーの締めくくりに、地下水の活用に関する問題点と解決策についてディスカッションをしっかりとびきメッセ



地質調査業協  
土質技術研C

230人参加しセミナー

大名誉教授という第一線の地下水研究者による講演をはじめ、地元企業から、杉谷雅祥山陰クボタ水道用材社長と横田博信協和地建コンサルタント取締役が、水ビジネスの起業や地下水採取の経験談など講話した。この中で、吉谷教授は「大山西部域および弓ヶ浜半島の水資源」をテーマに講演。米子平野に依存する貯水盆は弓ヶ浜半島へ地下水を供給しており、同半島の地下水を保全するため、調査井の設置やデータ解析等実態を明確にする必要があると指摘した。

地下水の  
利活用策探る

中国地質調査業協会眞支部(藤井三千男支部長)と(協)土質技術研究センター(同理事長)は19日、松江市のくびきメッセで「みんなの地下水・利活用セミナー」を開催。地質調査や

建設コンサルタント、土木施工の技術者ら230人が参加した。また横田氏は、地下水脈を探し当てるための踏査など苦労話を披露し、災害時に飲料水を確保するために、休眠している簡易水道水源の復活や避難所単位での新たな井戸の設置が望ま

最後に、システム・インテグレーションの多喜義彦社長をコーディネーターに講演者と藤井支部長の5人が、地下水の利活用に関する問題点と解決策についてパネルディスカッション。「地下水は国民平等の財産であり、保全と利用が有効に行われるよう、地質の構造を理解し、データの蓄積に取り組まなければならない」と総評。あらためて、現地踏査とフィールド専門の技術者の育成が課題との見解で一致した。